

160910

此所はどここの坂道じゃ

追分からヨドバシに向かうと

夜行バスの群れのエンジン音

残暑の夜を余計に暑くするよと

惰眠を貪る乗客達を僻目に

ヨドバシカメラにフィルムを買いにゆく

今度安い店が出来たよと

友だちに教わってから何十年

丸い緑の電車道を通り切って行くと

うれしいカメラの店があるよと

歌詞を口ずさんだのも懐かしい

今でもお店はずらりと並び

一寸異様な風景に

青い眼の観光客は

スマホ掲げて記念撮影している

フィルムも売ってますが

みんななにを買いにゆくのだろうか

僕は16年ぶりでブローニーフィルムを買う

5本入りで4900円、随分高いね

40枚で約5000円

樋口一葉さんが飛んで行く

現像代やらを考えたら

写真一枚200円かかるねと

口ずさみながら暮れゆく雑踏の中を

よちよち歩むのです

どこから来てどこに流されるかは分かりません

感光した光のつぶつぶがゼラチン膜の中に銀を

そっと黒化させるのは知っています

それから先は知りません

シャッターを夜空に向けること2分間

星々が同心円を描き出す頃にやっと撮り終えた

終電車を気にしちや好い写真は撮れませんぞと

ホームレスの老人が嬉しそうに語りかけるので

コンビニおにぎりを分け合って食べる

今頃バスは小仏峠を抜け甲州を疾走しているだろう

乗客達は眠れているだろうか

運転士は眠らないで欲しいと願うが

彼も流れ星と渾名された若い頃があつた

日は東に西に

バスも東に西に

北口に向かった僕は

とうとう終電車に乗り遅れ

薄暗い夜空を一晩中眺めながら

時々シャツターを切り

お金の無駄遣いをしている

さらばさらば一葉も逃すまいぞと

夜の秋風が耳元で囁くけど

野分の手下ではあるまいにと

誰も気にしないのも確かだ

日が差さない夜は余り風は吹かないんだよと

山仕事もしていたホームレスの老人は一口追加した

なにを、決まってるじゃん、焼酎とウイスキーさ

初出「即興ゴルコンダ(仮)」

<http://golconda.bbs.fc2.com/>

タイトルは、 さわ田マヨネさん